

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801172		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム あおば		
所在地	福岡市東区青葉7-13-41 〒813-0025 (電話) 092-691-7921		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月4日	評価確定日	平成21年10月6日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 8 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 2 月 1 日						
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	9人	常勤	8人	非常勤	1人	常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての～		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	2万～3万 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	月2,000 円
	または1日あたり		1,200 円程度	

(4) 利用者の概要(8 月 18 日現在)

登録人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.9 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 原土井病院	鮎川歯科
---------	------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の総合病院が、元相撲部屋を改装して6年前に開設したホームである。特徴として、協力医療機関や同法人内の居宅介護事業所との連携体制等があげられる。本年度は、開設以来、試行錯誤してきた地域交流について、町内会への参加が実現し、回覧板の閲覧や運営推進会議への民生委員の参加がみられた。従来法人全体で開催していた夏祭りを、今年度は、ホーム単体の夏祭りとして開催したところ、前回は皆無だった地域住民や家族からの参加が実現した。参加者の声として、「身近な方が参加しやすい」との意見があり、今後とも、地域・家族と一緒に連携しながらの行事等の開催を計画している。また、利用者とその家族も半数が入れ替わり、連携体制も変化してきている。今年度は、家族からの意見を反映させて、設備面での改善を図る等の事例も見られた。今後とも、地域、家族、行政と連携して、更なる充実が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の結果について運営推進会議時の報告、職員会議で協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、地域交流の充実や人権学習への参加等の成果が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価にあたり、職員に項目を回覧し、各々の意見をまとめながら、管理者が自己評価を行い、事業所の現状と今後の課題等の理解に努めている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 今年度より、新たに民生委員がメンバーに加わり、地域包括支援センター職員、家族を招いて2ヶ月毎に開催している。会議では、ホーム活動や利用者の状況の報告、地域行事や公民館活動の情報提供、家族からの意見要望、地域包括支援センター職員への質疑応答等が行われ、サービスの質の向上に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明している。実際の相談や苦情は面会時や運営推進会議時に直接出される事がほとんどである。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討した後回答している。この過程において、トイレ設備の改善等の成果が見られた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今年度より町内会に加入しており、回覧板の閲覧や運営推進会議への地域からの参加が実現した。結果、地域行事である夏祭りへの参加やホーム行事への地域住民の参加等の成果がみられた。また、地域の子供英会話教室からの訪問等もあり、徐々に地域との交流の機会を確保している。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスになったことを受けて、理念の 再検討をはかった。従来理念に加えて、地域との かわりについても明記し、包括的に利用者の穏や かな暮らしを支援する内容となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	就職時のオリエンテーション等で、理念について説 明を行っている。ホーム内に理念が掲示されており、 自然と目に入る工夫がある。職員は各々ができる事 で地域に貢献していく事への認識を深め、日々のケア を通じて理念に基づいたサービス提供へ取り組んで いる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	今年度より町内会に加入しており、回覧板の閲覧や 運営推進会議への地域からの参加が実現した。結 果、地域行事である夏祭りへの参加やホーム行事へ の地域住民の参加等の成果がみられた。また、地域 の子供英会話教室からの訪問等もあり、徐々に地域 との交流の機会を確保している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の結果について運営推進会議時の報告、職員 会議で協議を行うなど、質の向上への取り組みがある。 この過程で、地域交流の充実や人権学習への参加等 の成果が見られた。今回の外部評価にあたり、職員 に項目を回覧し、各々の意見をまとめながら、管理者 が自己評価を行い、事業所の現状と今後の課題等の 理解に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	本年度より、委員のメンバーとして、新しく民生委員 を加えて2ヶ月毎に開催している。会議では、ホーム 活動や利用者の状況の報告、地域行事や公民館活 動の情報提供、家族からの意見要望、地域包括支援 センター職員への質疑応答等が行われ、サービスの 質の向上に活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参 加がある。また、日常的な支援の内容等について、問 合せや相談を行っている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	前回の評価を受けて職員への研修を実施し、権利 擁護や成年後見制度について学ぶ機会を持った。ま た、制度に関する資料を用意し、必要な際の活用 にむけての準備がある。		現在、職員研修やパンフレット等の準備がなされてい ます。高齢者の権利や財産を守る制度の必要性は 高まると予想され、地域包括支援センターにも窓口が 設けられています。同職員が参加する運営推進会議 等でも、情報提供の機会を確保し、利用者、家族、地 域住民や職員にとっても有益な制度周知の機会とし て活用される取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族の面会時に、利用者の状況や、「領収書ノート」 を提示しながら金銭管理の説明等を行っている。面会 が難しい場合は、電話による連絡等を、適宜行っ ている。また毎月、行事等を綴った「ホーム便り」を郵送し ている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明し ている。実際の相談や苦情は面会時や運営推進会議 時に直接出される事がほとんどである。意見や苦情 については、内容に応じて、その場での回答や、職員 会議で検討した後回答している。この過程において、 トイレ設備の改善等の成果が見られた。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	職員の異動については最小限にとどめ、やむを得 ず異動を行う際は、引継ぎ期間を設け、馴染みの職 員が見守りながら支援にあたるなど、利用者へのダ メージを防ぐ配慮をしている。原則的に、新人職員の 導入研修は、法人本部で行い、受講後はホーム職員 の指導のもと、利用者と一緒に馴染んでいけるよう に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して年齢や性別、資格や経験の有無などによる制限は行っていない。採用の際には、理念の説明や夜勤・調理等が必要なことを説明し、適性や体力的に可能か否かについて、職員自身にも検討を求めている。就職後は資格取得の為に研修参加や勤務ローテーションの調整を行うなど、可能な限りで支援している。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所ミーティング時に高齢者への虐待や権利擁護等について学ぶ機会を確保している。また、地域や行政で開催される人権学習会には職員が交替で出席し、後日ホームにて受講報告会を開催するなどの取り組みがある		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単体と法人全体で計画的に研修を実施している。外部研修は、情報を掲示し希望を募ったり、職員の経験等に応じて適切に振り分けたりしながら参加の機会を確保し、質の向上に取り組んでいる。また、研修受講後は受講報告会を行い、新しい知識や情報を共有する取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会主催の勉強会や意見交換会等に職員が交代で参加し、交流の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、見学や体験入居等により利用者がホームに馴染めるかどうかを見極め、家族と相談しながらサービスを開始している。緊急性が高い場合は、関係者から情報を収集し、家族とも協力しながら利用者の不安を軽減し、他の利用者との関係においても徐々に馴染めるように支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から家事のアドバイスを受けたり、昔話を通じての人生経験等から学ぼうとする姿勢がある。ねぎらいや感謝の言葉を交わしながら、相互の存在を支えあう関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時は、利用者、家族及び関係者から情報を収集し、記録している。入居後は、日常的なかかわりを通じての言動、表情などから、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。各職員が汲み取った意向等は、カンファレンス時に意見を出し合い、利用者の視点に立って検討し、介護計画書に反映させる等の取組みがある。		
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	独自のアセスメントを作成し、ニーズと課題を捉えている。毎月のカンファレンス時に職員全員で意見を出し合い、利用者の意向や情報を把握し、介護サービス計画書に反映させる等の取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月の職員ミーティングにて、利用者全員のカン ファレンス、モニタリングを実施し記録している。介護 計画の見直しは、3ヶ月ごと及び心身状況に変化が生 じた際に関係者で話し合い、現状に即した新たな計画 を作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制や協力医療機関との連携体制を生か し、ホームでの生活の継続への支援や受診支援な ど、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家 族が入居後の主治医を選択している。協力医への受 診は職員で対応し、利用者のかかりつけ医による往 診も行われている。また、必要に応じて、地域の専門 医と連携しながら、適切な医療が受けられるように支 援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	入居前のホーム概要の説明の際に看取りについて 説明している(現段階では、看取りは行わない方針)。 その上で、ホームとして重度化に至った時のホームと して可能な支援について話し、同意を得ている。入院 や心身状況の変化時には、主治医を交えて話し合い の場を持ち、本人・家族の思いに添った支援を行う体 制をとっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員への基本的な接遇や言葉かけ、記録における 表現への配慮等については、入社時や研修時及びそ の都度指導を行っている。個人情報となる記録等につ いても注意深く取り扱うなど、管理を徹底している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームの流れとして大まかな目安はあるものの、食 事や入浴の順番など、日常生活全般において利用者 のペースを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	栄養バランスや利用者の好みを反映させながら、職 員が献立を作成している。それぞれのできる事できな い事に配慮しながら、職員と利用者が協力して食事 の準備、後片付け等を行っている。職員も利用者と同 じ食卓を囲み、和気あいあいと会話を楽しむ雰囲気 が伺えた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	夏場は週6回、冬場は週4回の入浴準備を行い、利 用者の希望に沿って柔軟に対応している。お風呂が 苦手な方にもタイミングを見計らって声かけしたり、 シャワー浴、清拭、足浴を行なう等、適切に清潔保持 の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	散歩や洗濯物たたみ、花の手入れ、体操、外掃除、 毎日の献立書き等、利用者間での役割や楽しみが自 然に出来あがっており、職員は、その時々の方本人の 気持ちを尊重し、無理強いすることなく支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や行楽など、定期的に計画立てての外出のほ かに、日常的な散歩や買い物かねたドライブ等、家 族と連携しながら、利用者の希望に沿って個別に支 援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関はビル全体の共有であり、施錠は行っていな い。また、トイレ等が外造りのため、自由に屋外に出 入りができるようになっている。職員は、利用者の様子 を見守りながら、声かけや散歩への付き添いを行うな どの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	定期的な消防署の指導、年2回の防災訓練などを 通じて、避難経路や避難方法、消火器の使い方など を学ぶ取り組みがある。また、近隣に法人の職員寮が あり、緊急時の連絡体制を組み、協力できるように準 備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の好みや食習慣にも対応できるように支援し ている。きざみやミキサー食など、形態が変わっても 美味しく食べられるように工夫している。定期的な体 重測定、毎回の食事摂取量を記録している。水分摂 取等については特に注意し、補給を促すなどの支援 がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、自然採光を調整し、のびのび と明るい空間になっている。ソファや椅子を配置し、 ゆっくりとくつろいで過ごせるように工夫したり、車椅 子や歩行器が十分、離合できるように安全面でも配 慮している。壁には、外出した際のスナップや絵画等 を掲示し、テーブルには花をかざり、和やかな雰囲気 を演出している。		元が相撲部屋であり、トイレ等が外造りのため、屋内 からは、利用者の状況が把握できません。利用者が 単独で使用する場合を考慮し、呼出し手段は必要か と思われます。また、温度、湿度等、外気の影響を受 けやすい環境でもあり、熱中症や急速な温度変化等 が高齢者に及ぼすリスク等も含めて検討の上、改善へ の取り組みを期待します。
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド(ギャッジ式)が備え付けてあり、寝 具、写真、テレビなど利用者にとって馴染みの物が持 ち込まれている。壁には、利用者本人や家族の写真、 カレンダーを掲示し、くつろげる雰囲気となるよう工夫 している。清掃は、職員と利用者とでできる範囲で協 力し毎日行っている。		

■は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号